



RAKUWA
lecture of health

第124回 らくわ健康教室

2012年11月17日



人間ドックの現状

～ 今はこんな検査が受けられます ～

洛和会音羽病院 健診センター 所長 はたけなか りくろう 畠中 陸郎



子どもたちのために、未来へ…

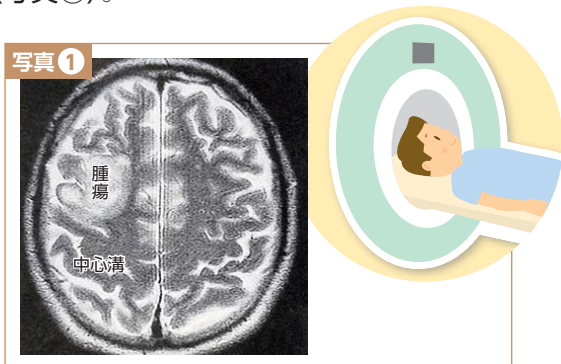
洛和会ヘルスケアシステム[®]

洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院
洛和会音羽記念病院 洛和会みささぎ病院

人間ドックの現状 ～今はこんな検査が受けられます～

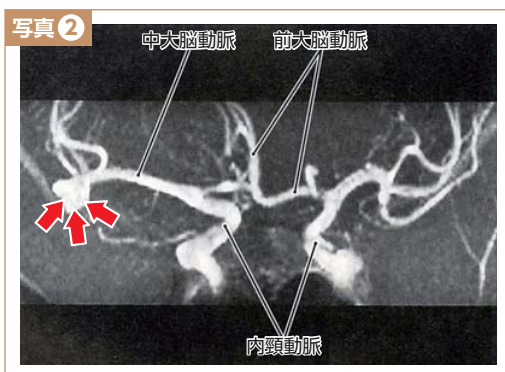
ひとくちに「人間ドック」といっても、特定の病気を予防するために行うさまざまな人間ドックがあります。具体的な症例を示しながら、各種の人間ドックで行う検査を紹介します。

こちらは、脳をMRIで撮影した画像です（写真①）。



MRIやCTなどの機械の名前は、耳にされたことがあると思いますが、いずれも脳の画像では、左側が右脳、右側が左脳という位置関係になります。写真①では、左側の中ほどに白い塊が映っていますが、これは腫瘍です。

次は、脳動脈瘤が見つかった画像です（写真②）。



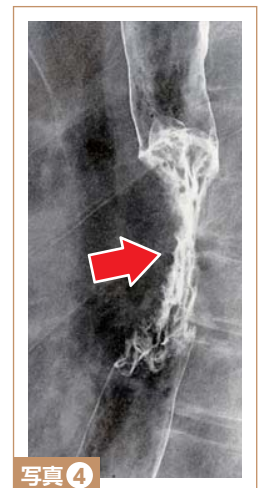
画像の左側の矢印で示した部分が脳動脈瘤ですが、だいたい6～7mmの大きさです。こ

の程度の大きさであれば、通常、治療は行わず、しばらく経過観察をします。

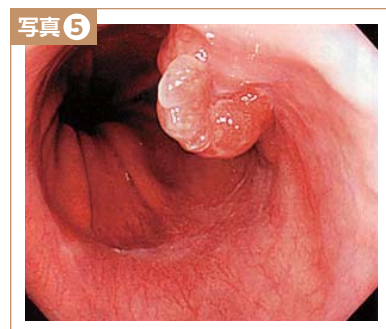
写真③は、胃カメラの時に舌の奥、声帯の近くを写した画像ですが、白く隆起した部分は喉頭がんです。



バリウムを飲んでもらって検査したX線写真（写真④）では、食道の背部に背骨が映っています。食道が途中から急激に狭くなっているので、バリウムを流し込みます。食道が狭くなるあたりの部分が、食道にできたがんです。



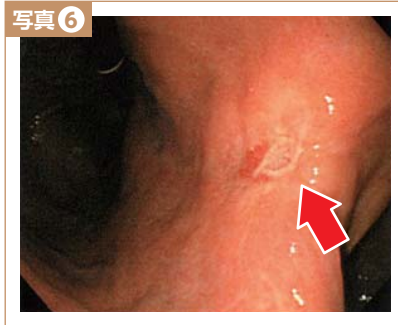
写真⑤は、胃カメラで撮影した食道がんです。



この程度の大きさであれば、まだ自覚症状がありません。以前は、これくらいの大きさでも外科手術で取り除いていましたが、現在は、内視鏡を使って取り除きます。



写真⑥の矢印の先にあるのは胃がんです。



写真⑤と違って凹凸が少ないがんの場合、内視鏡を使って食塩水を注入し、浮き上がらせてから取り除きます。

写真⑦は、大腸を撮影した画像ですが、肛門から小型カメラがついたチューブを入れて撮影します。突起部分が大腸にできたがん（大腸がん）です。



カメラを入れる前には下剤を飲んで、便を全て出してもらいます。検査で細かな部分も判断できるために必要です。

写真⑧は、超音波検査（エコー検査）で撮影した、お腹の画像です。だ円状の黒い部分が胆のうで、その右側の白い部分が胆のうがんです。

胆のう内部の白い部分は、がんとポリープの判断がつきにくい大きさです。そのような場合は、経過を観察します。たとえば5mmほどの場合、1年後に1cmほどに大きくなっていけば、がんである可能性があります。これが、5～6mmだとポリープ、石灰化していれば胆石である可能性が高まります。

写真⑨の黒いだ円状に見えるのは腎臓です。その中の白い部分が腎臓がんです。腎臓がんは痛みが少なく、血尿が出ますが少量です。

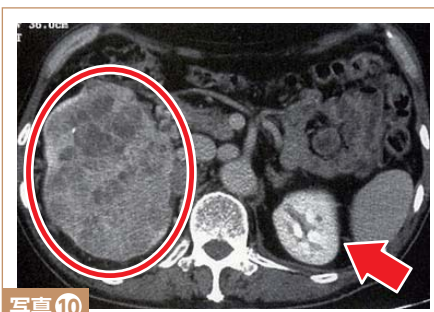
CTで撮影した写真⑩は、胴体を輪切りにしたような画像で、上がお腹側で下が背中側です。左側の白い大きな塊が腎臓がんです。右の腎臓（矢印）と比べて4倍ほどの大きさになっています。



写真⑧

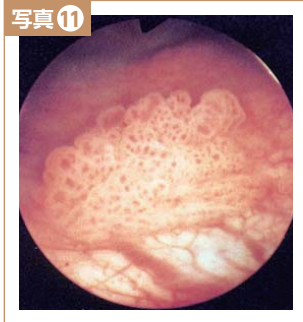


写真⑨



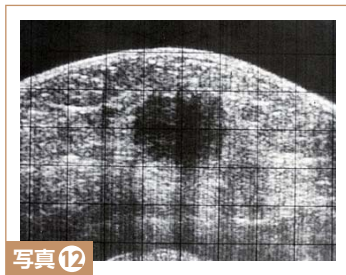
写真⑩

ぼうこう
膀胱をカメラ撮影したところ、膀胱がんが見つかりました
(写真⑪)。

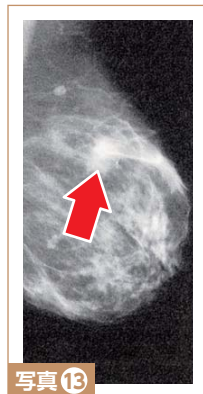


膀胱がんの場合、出血があるのですが、小さながんでは出血も少ないため、尿検査で膀胱がんが見つかるケースは多くありません。

乳がん健診で乳房をエコー検査で撮影した写真⑫は、中央の黒い部分が乳がんです。また、マンモグラフィで撮影したものが写真⑬です。矢印の先にがんがあります。マンモグラフィは、乳房をはさんでX線撮影するもので、感度が高いため、エコー検査や触診よりも病変を発見しやすくなります。



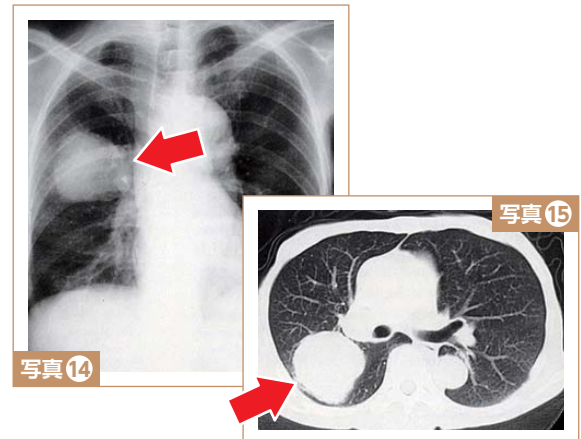
写真⑫



写真⑬

写真⑭はX線撮影の画像です。向かって右が体の左側、左が体の右側です。左側に大きな円状の影がありますが、これは肺にできたがん（肺がん）です。これはかなり大きな肺がんで、X線でも確認できますが、小さい影

の場合、X線では判別が難しいため、カメラで詳細に調べます。同じ人をCTで撮影した写真⑮の画像では、左下に白く丸い影が映っています。



写真⑭

写真⑮

洛和会音羽病院では、2011年にPET-CTを導入し、多種多様ながんを早期発見できる検査体制を整えました。

組織の機能と組織の形態がわかる、写真⑯のような高精度融合画像が撮影できるため、診断の精度が向上し、より正確な治療も可能となりました。



写真⑯

見つかった
腎臓がん

